

山形県地域密着型サービス自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

※項目番号26 馴染みながらのサービス利用
 項目番号39 事業所の多機能性を活かした支援
 については、小規模多機能型居宅介護事業所のみ記入してください。

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホームメルヘン
(ユニット名)	桜の園
所在地 (県・市町村名)	山形県東村山郡大字大寺1132番地5
記入者名 (管理者)	佐藤 かおり
記入日	平成 19 年 6 月 20 日

山形県地域密着型サービス自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の公共施設、スーパー等の利用を行う取り組みをしている。又近隣の小学校との関わりもある。地域の住人のボランティアはない。	○ 近隣の住民との関わりを行いたい。
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ゆっくり、一緒に楽しくを心かけていけるように、目の届く所に貼りだしをして、常に心かけをできる様にしている。	○ 今後は、ミーティング時に、皆で声を出し読み上げる等して更に認識の向上を図りたい。
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	近隣の施設、スーパー、馴染みのお店等の利用にて理解を深めてもらえるようにしている。	○ 近隣の施設利用を今後も増やしたい。
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	ゲストの友人等、老健利用ゲストの面会等行える様に老健職員との関わり等も作る様にしている。	○ 近所の小学生や近隣入居者のゲストの友人等の面会の声かけ等で増やして行きたい。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	敬老会や夏祭りに近隣のボランティアを盗り入れたりしている。近隣の廃品回収等に協力もしている。	○ 今後も地域のボランティアの協力要請をしていきたい。地域の老人会等にも関わる機会も作りたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	現在は行っていない。	○	上司、職員との話し合いにて検討していきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	毎年、実施している。評価を活かし、改善にむけている。	○	今後も評価を基に、より良いケアに繋げていきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に行い、改善に向けた取り組みをしている。	○	家族、ゲスト等からも意見を聞き、サービス向上に繋げたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	交換研修会や研修会の参加にて、交流を図っている。	○	今後も市町村との関わりを密にして行きたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修会参加等での機会作りをしている。	○	今後も、積極的に参加していけるようにしたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会参加にて学ぶ機会を作っている。又、学習会にて皆に知ってもらう機会を作っている。	○	今後も研修会で学んだ事を皆に知ってもらう為、学習会の機会を作っていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は十分な説明を行い、文書にて残している。随時、質問や疑問に対応出来る様になっている。	○ 今後も、家族との話しを行う機会を十分に行いたい。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受け入れの体制を設けている。苦情があれば、職員間で改善していく様な体制を作っている。	○ 今後も、苦情等あれば、改善に導けるようにしていく。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族会を設け、知らせる機会を作っている。	○ 今後も、家族会の活動を進め、定期的に意見を聞く機会を作りたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受け入れの体制を設けている。苦情があれば、職員間で改善していく様な体制を作っている。	○ 今後も、苦情等あれば、改善に導けるようにしていく。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	学習会を定期的に行い、意見交換の場を作っている。	○ 今後も学習会、又、職員との話し合う機会を設けていきたい。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	定期的な主任会議での話し合いにて対応している。	○ 職員から意見があれば、会議に持って行く様にしていきたい。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの職員による支援が受けられるよう配置異動を行い、職員が交代する場合でも、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	やや人数の多い配置移動があり、入居者、家族の不安がみられたが職員が説明を行い、不安解消に導けた。	○ 今後も、移動時は、家族、入居者への説明を十分に行う配慮をしていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
5. 人材の育成と支援				
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修会への参加や、育成の為に目標のプランニング、面接を定期的に行っている。</p>	○	<p>今後も、研修参加の推進、定期的な話し合いを行い、育成に繋げていく。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>他機関との交換研修会、勉強会等を通して、交流の機会を設けサービス向上に繋げている。</p>	○	<p>今後も、交換研修会、勉強会等への参加を進めていく。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>学習会等で話し合いを行う機会作り、年数回、仕事外での交流会を行う機会を作っている。</p>	○	<p>今後も、学習会や、仕事外での交流の機会を作る様にして、ストレス軽減に導きたい。</p>
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>人事考課を導入しており、評価をしている。</p>	○	<p>今後も、考課を評価に繋げたい。</p>
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>受け持ち体制を作り、受け持ち職員が話を聞ける機会を作っている。又、受持ち以外でも相談に乗れるように、個別で気の合う方同士出かけて話を聞いている。</p>	○	<p>個別で出掛け、ゆっくり関わり、話し易い雰囲気作りを行いたい。</p>
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居前の家族から話を聞く機会を作っている。又、入居時には十分な説明を行い、疑問不安等に応じている。</p>	○	<p>今後も、十分な事前説明、事後にも家族に伺う様にしていきたい。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族と十分に話し合いをして、理解して頂き、必要時、希望時、他サービスの利用の援助を行う様にしている。	○	家族の希望や理解をしっかりと頂き対応して行きたい。
26	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者の過去の栄光、得意な所を聞き出したり、話したりして取り入れていく様にして、主になる場作りを心がけている。	○	自分の意思を伝えられない方には、家人から聞く等の工夫をしていき、本人の事を知り得ていきたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族、ゲストとの食事会を開いたり、家族会を開いたりして、共に支援していく関係を行っている。	○	今後も、定期的な家族、ゲストとの食事会や家族会での交流をしていきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族とゲストが出掛ける機会を家族に合わせ行っている。又、面会時にゲストを交え話しを聞いたりしている。	○	今後も、面会時に家族との話しをする機会を十分に行いたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近隣の方には、近所の方に遊びにきてもらう、家人と自宅に行く機会等を作っている。	○	近隣以外の方にも、友人等に遊びにきてもらう様にしたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	気の合う方同士に家事作業をしたり、個別に出掛けたりしている。	○	今後も、ゲストが気分良く、いきいきと、生活出来る様に支援したい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	利用後も、家人に連絡したりして関係作りをしている。	○	今後も、継続的な関係を、築ける様な連絡の取り合い関わりを持ちたい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	気持ちシートを使い、本人の希望、やりたい事を聞き出している。	○	気持ちシートを活用した希望を、定期的に行い、希望を多く叶えたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族から情報収集して、記録に残す、職員間でも、カンファレンス、ミーティングで話したりして活かしている。	○	記録に残す点で、十分でない面もある為、気持ちシートに記入する等の手段を取りたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人一人の希望やペースに合わせて、一日を過ごせる様にしている。希望しない事は、行わない様にしている。	○	一人一人のペースを守りながら、豊かな満足のいく生活援助をしていきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	定期的に介護計画を見て頂き、意見、希望を伺い、ケアに取り入れている。	○	本人の昔を、最も知る家族からの情報を基により良い介護計画を目指したい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的にカンファレンスを行い、必要に応じて、見直しして、家人の意見を頂いて、新たな計画を作成している。	○	若干、期間が遅れて行う事もある為、状況に応じた随時の対応を行う様にしたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきシートの利用にて、問題や気づきを記入する様になっている。	○	記入があまりない方もいる為、気づきをまめに記入する癖を付けていきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、公民館、図書館、その他公共的施設などの協力を得ながら支援している	避難訓練時の協力や民生委員の訪問等を行っている。近隣の資料館の利用も行っている。地域以外だが、図書館利用も時々、行っている。	○	地域の図書館の利用もして行きたい。又、他にも地域の公共施設を使っていきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や生活支援上の必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、介護保険外も含めて他のサービスを利用するための支援をしている	定期的な、認定調査時のケアマネジャーとの話しを行い意見交換をし、家人との話し合いの中で、必要に応じたサービス活用を検討している。	○	今後も、的確な情報交換を行い、ゲストに合わせたより良いケアを提供していきたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	連携施設との関わりはあまりない。		今後、協力体制をしていく必要がある。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な受診を行っている。必要時は、随時、受診対応をしている。	○	体調管理を十分に行い、早めの受診をしていくようにしたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	主治医が専門医師の為、認知症の理解がある。必要に応じ、内服や検査も行っている。	○	定期的に受診し、医師に的確な報告を行っていく様にしたい。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師は、認知症の理解ができており、気軽に相談出来る体制がある。	○	状況に応じ、こまめに、相談をしていきたい。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	連携病院がある。入院時は、まめに、連絡を取り合い、面会したりして、情報交換を行っている。	○	入院時、退院に向け、退院迄の間、しっかりとした連絡の取り合いを行ってきたい。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居前契約にて、説明している。状況に合わせて家人に相談連絡を行うようにしている。状況に応じ、かかりつけ医師との話し合いも行っている。	○	今後も、まめな連絡を行ってきたい。早めに対応を、出来る様にして行きたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	定期的に、ユニット職員間での話し合いや、全体としての話し合い(主任会議)にて話す機会を設けている。かかりつけ医師との連携にも努めている。	○	今後も、職員間の話し合いをまめに行い、必要に応じ対応を行う様にして行きたい。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入居前に本人の情報を十分に聞き、職員間でも共有出来る様に、報告を行う様にして行っている。又、家人には馴染みの物を、持ってきてもらう様にして、ダメージを防いでいる。	○	ダメージを防ぐ為に、出来るだけ、本人の住みなれた場所に近くなるように家人の協力を得ながら、環境作りをして行きたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	処遇、接遇に関して、月1回のミーティングにて話し合いを行っている。記録に関しては、個人情報が損ねられないように、目、手の届かない所に置く配慮をしている。	○ 個人情報を守るように対応していきたい。又、接遇に関し、今後も職員間で互いに、意見交換し合い、丁寧な接遇をしていきたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	個別に本人と話し合い、気持ちシートを活用する等、希望や要望を聞けるようにしている。	○ 個別に1対1で話し合う機会を作り、希望や要望を聞くようにしていきたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望に合わせて、過ごせる様にしている。希望する事、したい事をしてもらう様にしている。	○ ゲストの希望を優先したケアを行える様にしていきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	隣接施設に理容師さんが週2回来る為、希望に合わせて利用している。又、希望があれば、家人と外部の理、美容院を利用している。	○ 希望に合わせた対応をしていきたい。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の好みを聞いたり、献立に取り入れたりしている。季節感を感じてもらえる様に、旬の物も取り入れるようにしている。	○ 一人一人の好みを知り得るように、話を聞いて、献立に取り入れたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	タバコは現在、吸う方はいないが、お酒は、祭りの時に希望に合わせて、適量飲んだりする機会を作る様にしている。おやつに関しては、希望があれば、本人のおこずかいより購入したりしている。	○ 本人の希望を大切にして、その人らしい生活援助をしていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	本人の様子を観察して、本人に合わせた排泄ケアをしている。汚染が不快に繋がらない様に、トイレにての排尿が出来る様に誘導している。	○	ゲスト一人一人の、様子をしっかりと観察して、早めのトイレ誘導に心がけ、自立に導きたい。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望に合わせて、入浴出来る様にしている。希望ある方には、毎日入れるようにしている。	○	本人の希望を大切にして、その人らしい生活援助をしていきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	認知症による夜間不眠傾向の方には、日中、離床してもらい、夜間良眠に導ける様に援助している。他の方にも、日中は、離床を促せるように家事活動等、個々に合わせて行う様にしている。	○	個々の生活を大切にしながら、日中は離床し、夜間は良眠出来るような援助を目指したい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個々のやりたい事や得意な所を活かし、希望に合わせた支援をしている。	○	自分のやりたい事を、あまり口にしない方からも、楽しみが見出せるように、希望、楽しみを見出していきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分でお金を持ちたい方には、ある程度の金額を管理出来る様にしている。	○	希望する方には、お金を手持ちできるような支援をして行きたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	個別外出の機会を多く設けている。希望者には、外出を行う機会を作っている。月2、3回、全員での外出を設けている。	○	今後も、希望者には、個別外出や、散歩の機会を多く設けたい。継続して、全員が外出する機会も設けていく。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	足湯、さくらんぼ狩、喫茶店、花見等に行く機会を設けたりしている。家人との、外出の機会も個々に合わせて行っている。	○	家人協力は、ゲストが希望しても得れない事もある為、今後、ゲスト希望があれば、取り入れられるように、話をして行きたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望者には、手紙、電話の支援をしている。認知症の重い方には、家人からの電話を頂く様にもしている。	○	希望を大切に、個々に合わせた援助をしていきたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	気軽に来ていただき、話が出来る様に、数カ所にくつろぎスペースを設ける工夫をしている。	○	又、来ていただけるように、職員の配慮も行う様にしていきたい。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしていない。徘徊者にも、見守りによる援助をしている。	○	何らかの意味があり起こり得る徘徊等に対し、職員間で共通の認識でケアに取り組む様に、今後も、定期的に話し合う機会を設けたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら鍵をかけないで安全に過ごせるような工夫に取り組んでいる	鍵はかけていない。夜間のみ安全の為、鍵をかけている。徘徊者には、見守りにて安全確保をしている。	○	今後も、鍵をかけずに見守りを十分に行いたい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	9名全員の居所を、しっかり把握する様に、見守りを十分にしている。定期的な職員間の話し合いでも、議題として話し合う機会を作っている。	○	ゲストの状況把握をしながら、見守りをしっかりしていきたい。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険なものは、手の届かない所に置く等の配慮をしている。希望すれば、使用出来る様にしている。	○	安全な配慮をしていきたい。今後も、見守り配慮をしながら、希望あれば使用出来る様にしていく。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	毎月1回の職員会議の中での話し合う機会を設けている。日々、注意を計らうようにしている。	○	再発のない様に、反省しながら、今後につけていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	定期的に学習会で、看護師の指導を行い、学んでいる。又、ユニットの定期的な会議でも話し学ぶ機会を設けている。	○	今後も、職員が統一して対応を出来る様に指導していく必要がある。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年数回の避難訓練を行い、万が一に備えている。	○	今後も、訓練を通じて、万が一に備える対応をしていきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	転倒の多い方等に対して、又、状況により強い精神安定剤を使う方には、十分な説明を行い、記録に残している。	○	家人の信頼を大切にされた、的確、まめな連絡をしていきたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	早めの対応が出来る様にきずいた事は、報告を行い職員間の連携を行う様にしている。	○	随時、話し合う報告する癖を身につけて、的確な対応をしていきたい。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各自の処方箋があり、職員が把握している。分からない所は、職員間でも話して理解に努めている。	○	薬の内容の変更があれば、随時、内服内容の把握に努めていきたい。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘の方には、水分を多く取る様にしたり、繊維の多い物を取る工夫や運動に心がけている。状況に合わせて、内服援助をしている。	○	出来る限り、内服に頼らないように援助していきたい。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアを行っている。状況に合わせて、口臭剤の使用もしている。	○	毎食後のうがい、歯磨きが基本となる為、一人一人に合わせて援助したい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	必要な方には、水分量のチェックもしている。体調に合わせて水分補給している。多めの水分補給に努めている。	○	脱水の原因ともなる為、水分は十分に取れるように援助していきたい。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	学習委員会があり、その中で取り決め、マニュアルがある。又、感染症が出てしまった場合は、随時、マニュアルを出し的確な対応をしている。必要に応じ、医師の指示を仰いでいる。	○	感染症が出ないようなケアに取り組みたい。しかし、出た場合は、職員間の連携をしっかりとりたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日、消毒してチェック表に記入している。生物は極力避けて対応したり、保管や賞味期限に配慮している。	○	的確な消毒対応、食品管理を行いたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りは、家庭的な配慮をしている。外には、花を植えたりしている。	○	親しみ易く入り易い様な環境になる様に配慮していきたい。意見等を聞く機会も作りたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	音が混雑したりしない様に配慮している。音の高さにも配慮している。光の加減に合わせて、ゲストに聞き、調節している。	○	ゲストの意見を大切にして、環境作りに努めたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	空間作りを多く行い、くつろぐ場を何か所か設けている。	○	気の合う方がくつろげる環境作りをしたい。ゲストの希望を聞き入れ導入もしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	状況に合わせて、環境作りをしている。家族の写真や思い出のものをお部屋においている。	○	ゲストが安心して過ごせる様に、家人の協力も得ながら、環境作りに努めていきたい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	適温になる様に配慮している。出来るだけ、自然の風、光を取り入れている。	○	温度の配慮をして、体調管理に努めたい。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来る限り、歩行障害にならない様に危険な物は省く配慮をしている。	○	安全な生活援助を目指して、配慮していきたい。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	混乱、失敗がない様に否定しない様に心がけている。職員間での定期的な話し合いしたり、話したりもしている。	○	一人一人がいきいきして満足に暮らせるように、希望を聞き、否定せず、援助していきたい。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダに椅子やテーブルを置いて、自由にくつろげる環境作りをしている。	○	ベランダでのお茶飲み等の機会も、天気に合わせて行いたい。

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
		○	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
			②少しずつ増えている
		○	③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

個別外出の機会を多く設けている。気の合う方同士で、買い物や、外でのお茶飲み、足湯、花見、図書館等に行く機会を設けている。又、月に2, 3回は、全員での外食や外出を設けている。天気の良い日は、弁当を持参して、月山に行く等、外の空気に触れて食事をしたりする。施設外に出て、気分転換が出来る様に、各々の職員がアイデアを出し合い、企画している。又、お好み食事作りの機会を週に、2, 3回設けており、季節の食べ物や、入居者の好みの物を共に作っている。家族との交流も大切にして頂く面から、家族と美容室に行く機会等も、ゲストに合わせて行っている。希望する方には、毎日、入浴が出来る様にしている。